

# 工芸 愛海詩

えみし

工房グラスリップ(岩見沢市)

## 吉川 満

### ガラス作品展

ガラスのあかりと遊ぶ

11月23日～12月5日

特別号 No.26  
 工芸・愛海詩の会  
 会報  
 平成22年11月20日発行  
 編集発行人/工芸ギャラリー  
 佐藤 睦子  
 〒064-0821  
 札幌市中央区北1条西28丁目2番17号  
 TEL・FAX/(011)613-1112  
 WEBSITE  
 http://www.emishi-s.com  
 E-mail:kougei@emishi-s.com



創作中の吉川 満

### 人生のキャンパス

たった一枚、自分にしか描けない絵を描いている。長く生きていくと大作になる。それは私の人生、私自身、心の中に描く絵だ。白く塗りつぶしても以前に描いた線が鋭く、色目も濁っていたら微妙に影をおとすこともある。何度も加筆し、塗りつぶし、確かめ、確信し、描き進める。年を経るごとに、確かな線、やわらかい線を引けるようになった。色の響き合いにも心配りするようになった。若き日の線は直截で憂いがなく、真直ぐだが、少し礼節に欠け、美しくも残酷に見受けられる。私の人生の白いキャンパスに描いた絵は、お世辞にも上手とはいえない。もっと上手な違う絵が描けたのではないかと、描けるのではないかと思う時もあるが、それはきつと己れという者を解らない幻を思っているからだろう。

もし、あの時あのようにしていたら、もし、あの時このようだったら……。しかし、人生に「もし」はない。一日一日の出来事は、その時々合いであり、選択であったりする。一期一会の事象は数珠玉のように繋がって行く。その時々をひき受けた自分を「よし」としなければならぬ。自分の人生どうであれ、自分という者をフルタイムにひき受け、自分を活かし潔く生き切るものなのだと思う。私は人生の折り返し地点を、とうに過ぎていくのだから一日、一日を徒や疎かにほできないと思うようになった。一日、一日、折り返しの景色を楽しんでいる今の自分がいる。

今日はどんな線が描けるのか、どんな色合いにしようか、わくわくしてギャラリー愛海詩に出かけて行く。そして皆さんへの感謝を胸に筆を進める。最後に筆を置く時がきたら、どんな絵ができあがっているのだろうか。その時、妙に心地よくシューベルト作曲、交響曲第八番口短調が響いたり……。ということも有り得る。(佐藤 睦子)

- #### ●プロフィール●
- 1984年 北海道造形デザイン専門学校 インテリアデザイン科 卒業
  - 1987年 尙豊平硝子 入社
  - 1993年 グラス・トリップ設立
  - 1994年 全道展 入選 ('95・'96) 第26回第三文明展(静岡) 入選 北の生活産業デザインコンペ 入選 ('96・'99) 第3回ミレー友好協会展(大阪)特別賞 工芸都市高岡'95クラフトコンペ 金賞
  - 1996年 使ってみたい北の菓子器展 入選
  - 1997年 金沢工芸大賞コンペティション 入選
  - 1998年 工芸都市高岡'98クラフトコンペ 銀賞 使ってみたい北の菓子器展 奨励賞
  - 2002年 いまだてクラフト展'02 今立町長賞

吉川満、ギャラリー愛海詩で九回目の作品展である。ライフワークのライトオブジェを中心に、器、コップ、置き物など、約二十点ほど展示する。ライトオブジェは三年前より、ずいぶん進化し、美しい色を楽しめる。本人のこの作品に対する思い入れ、慈しんで育むように作っているのがよく解る。作品展は全て新作で、プロのガラス作家としてのプライドを楽しく思う。多くの方に今、この時の吉川満の仕事、北海道が産んだ素晴らしいガラス作家の仕事ぶりをご覧になられ、手にとって使っていただきたいと思う。

物作り受難の時は続いているが今回の作品展、吉川はよく励み、いつもガラスの事を考え、愚直なまでに良い作品を作ろうとする。その思いが実を結び、使っていて作品が語りかけてくれる、包みこんでくれるような、嫌味のない作品群となっている。話を聞けば、一旦仕事場にはいると、熱い火と、ガラス、鋭い破片と削り。時として命がけで創作する時も少なくないようだ。「腰が痛いなんて言っちゃられない。重い作品が持てないなんて言っちゃられない。失敗をすると自分が許せなくなると、自分を怒鳴りつけることもあるんだ。悔しいよね。ひどく自分を叱った時なんて工房の近くを通った人なんかびくびくりしているよね、アハハ」。私は思わずそう思った。吉川満が懸命に作った作品、その福音をみなさんと共に、手にとってよろこびたい。



**ガラスの鏡餅**  
 たて8cm×よこ8cm×高さ11cm(LEDライト付)  
 正にリアルタイムの作品である。お正月のアイテムとして明るくごまかせてくれる。小さな作品だが形、磨きの技がすばらしく、ユーモラスの中にもインパクトがある。



**ピース(平和)、ガラスオブジェ**  
 たて11cm×よこ11cm×高さ15cm(LEDライト付)  
 見る人のイメージがふくらむ。炎であったり、ふくらみのあるしずくであったりする。いずれにしても宝珠形で、ほしい物が思いのままに出せるという、宝玉、如意宝珠を思う人は多いだろう。美しい色目で家族の平和、国家の平和、世界の平和にも作家は思いを馳せる。



**スノーグラス**  
 たて7.8cm×よこ7.8cm×高さ7.5cm  
 陰陽のゆらぎが美しいガラスになったような作品だ。手の平でころころ遊ばせて使ってみよう。光を受け反射し、光と影が動きをみせ語りかけるかのようだ。普段使いに愛でたい作品である。



**オアシス、ガラスオブジェ**  
 たて8cm×よこ8cm×高さ23cm(LEDライト付)  
 じっと眺めていると、つい時を忘れてしまいたい。写真がカラーでないのが残念だが、実際ご覧になられると、写真、想像をはるかに越えた美しさに合えるのは間違いない。吉川満の作品である。

ライトオブジェはいずれも多くの手間と、高度な技が必要である。腕と腰にかなりの重量、力がはいる。急に冷ますとひびがはいるので2日～4日ほどかけてゆっくりと形を治める。泡のちりばめ、色のきらめき、一瞬の技の連続。雪におおわれた北の街だからこそ家の中でほっこりと美しいあかりを楽しみたい。

☆ 吉川 満 ギャラリー滞在日  
 27日(土)、28日(日)、両日、午後1時から午後5時まで吉川がギャラリーにおります。作家との交流もしていただけたら幸いです。

### 「ご挨拶」

ガラス作家・吉川 満

ガラスの透明な美しさに魅せられて飛び込んだ世界。早く自分の手で自分の作品を創りたい一心でただひたすら働き、作り続けてきた豊平硝子工場時代。そして独立し、自分の作品を創り、多くの人に見てもらいたい、使ってもらいたいと気持ちばかり先走って空回りしていた日々が懐かしく思い出されます。毎日、毎日、自分のガラス作品を創り続け、がむしゃらに走り続けてきました。多くの人たちに出会い、助けられ、作品をたくさん送りました。独自の作品を生み出した事にも喜びを感じています。環境は変わって先の見えないこの不況、今までと同じやり方で続けていくのは厳しい現状です。今まではデザインと自由な発想を重視して創ってきました。大切な課題であるけれどこれからは、売れるものを、との考えで今までは以上に取り組んでいかなくてはなりません。売れなければ生活が成り立ちませんか？。今まで以上に勉強し、考える時間が必要になります。お客様と触れ合う直接販売のイベントなどで試作品の反応を見たり、問いかけてみたり、研究を続けていかなければなりません。地味な仕事ですが私はガラス作品を創っていきます。そこに魅力的なガラスがあるから。ガラス工芸の仕事は天職だと思います。

ギャラリー愛海詩さんで九回目の展示会を開けることを楽しみにしています。三年前に次ぐ二回目の冬のガラスがテーマです。ガラスのイルミネーションをはじめ、器も出品します。北国の長い冬を、楽しくあったかく平和に暮らせるように、クリスマス・お正月・冬のイベントにぜひ使っていただきたいと思っています。これまでの展示会でたくさんの方の足を運んでいただき感謝しております。今回もまたご覧いただければ幸いです。